

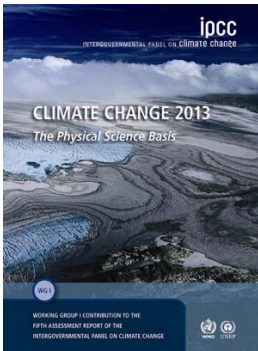
地球温暖化問題を巡る国際動向調査

— 温暖化抑制に係る取り組み指針の科学的根拠について —

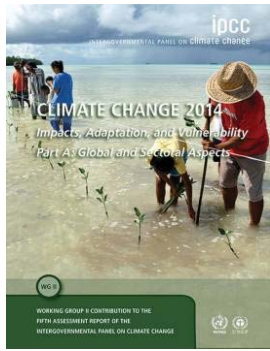
気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、温暖化に関する科学的知見を収集・評価し、温暖化予測(第1作業部会)、温暖化影響と適応(第2作業部会)、温暖化緩和(第3作業部会)からなる報告書等の作成を行っています。これまで5回の評価報告書が作成され、気候変動に関する国際連合枠組条約(UNFCCC)における温暖化抑制の目標数値に係る取り組み指針の科学的根拠となるなど、気候変動の国際交渉の方向性に多大な影響を与えてきました。最新の第5次報告書は、2015年にかけて行われる2020年以降の新たな温暖化対策の法的枠組み構築に向けた事務レベル及び首脳・閣僚級の議論の基礎を形成する科学的な知見として、今後の温暖化対策の世界動向の決定に特に重要と見なされています。RITEは経済産業省(殿)から委託を受け、(1) IPCC関連会合への出席と専門家派遣を通じた情報収集・分析、(2) IPCC第三作業部会に関する幹事会の主催、(3) アウトリーチ活動の準備、(4) 総会・レビューに関する調査と報告等を実施しています。

IPCC第5次評価報告書

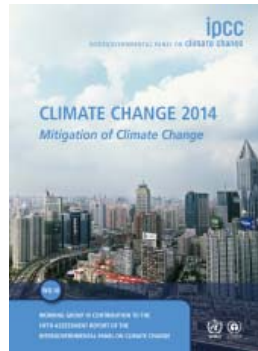
第4次評価報告書(2007年)以降の気候変動に関する最新知見をまとめた第5次評価報告書が、2013年から2014年にかけて各WGから公表され、さらに2014年10月の第40回IPCC総会(於:コペンハーゲン)において、これらの評価報告書及び第4次評価報告書以降に公表された特別報告書の知見を統合した「統合報告書」が採択されました。



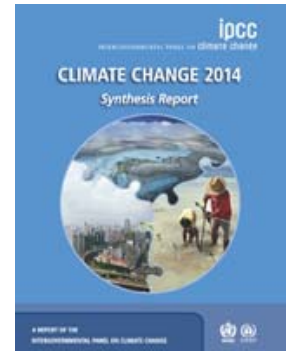
第1作業部会報告書
『気候変動2013
- 自然科学的根拠』
2013年9月



第2作業部会報告書
『気候変動2014
- 影響・適応・脆弱性』
2014年3月



第3作業部会報告書
『気候変動2014
- 気候変動の緩和』
2014年4月



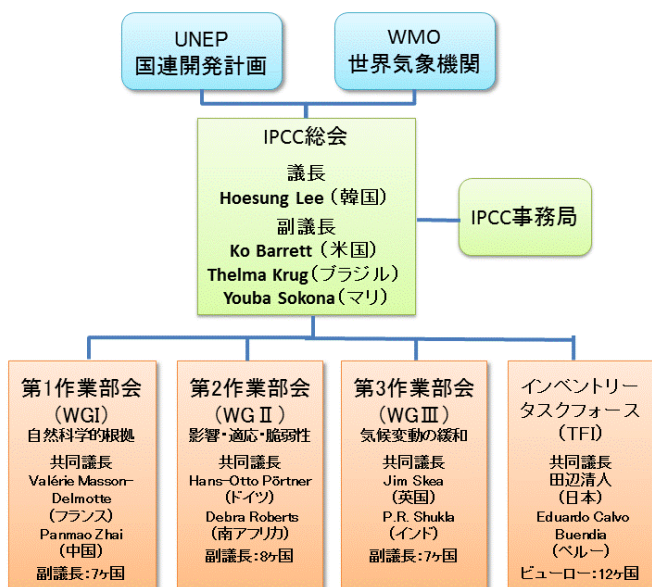
統合報告書
2014年10月

第42回IPCC総会

第42回総会は、2015年10月5～8日にクロアチア・ドゥブロブニクにおいて開催され、135か国の代表、約300名が参加しました。本総会の主題はIPCC役員選挙であり、ここで選ばれたメンバーが次の第6次評価報告書の作成を主導することになります。

選挙では先進国/途上国及び地域バランスが考慮されます。議長、副議長、WGとTFIの共同議長、WG副議長、TFIビューローメンバーの順に選挙が行われ、IPCC議長には、Hoesung Lee氏(韓国)、副議長には、Ko Barrett氏(米国)、Thelma Krug氏(ブラジル)、Youba Sokona氏(マリ)が選出されました。日本からは田辺清人IPCC TFI技術支援ユニット部長/(公財)地球環境戦略研究機関 上席研究員がIPCCインベントリータスクフォース(TFI)の共同議長として選出されました。

これから5～7年をかけて、第6次評価報告書の作成を中心とした作業が行われることとなります。次回の第43回総会(ケニア・ナイロビ)では、その方向性がより明らかになります。



第6次評価報告書に向けた新組織

(本資料は経済産業省からの委託事業の成果をもとに作成しています。)